

自己評価票

(個別表)

【事業者名称】グループホーム悠愛

平成21年10月31日評価実施

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
		I-1. 理念と共有			
1	1	☒ ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立(潜在能力の維持)と尊厳(自分らしい自由な生活)を貴重に支援している。		
2	2	☒ ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常時、個人的な問題や悩みはスタッフ会議やミニ会議において検討し、その人らしい暮らし方ができる様に支援している。		
3		☒ ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議において地域との関り方、参加の仕方や情報を話し合っている。また、近隣には苑を開放し、いつでも関りを持てる様にしている。		
理念と共有 3項目中 3項目					
		I-2. 地域との支え合い			
4		☒ ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の子供さんが苑内の畑で遊んだり、スロープで遊んだりしている。その際、苑の利用者と会話があり理解を深めている。		
5	3	☒ ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や自治会の参加は無理な状況である。字行事参加は体調を見て参加している。		
6		☒ ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会を通し、苑が協力出来る事がないか…検討している。協力できるのは職員に限られる。		
地域とのつきあい 3項目中 3項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I－3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	☒ ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	残された課題の検討はスタッフ会議において話し合いを行い改善に向けて努力している。自己評価を全員が取り組み認識を深めている。		
8	5	☒ ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議でもあり、苑内での利用者の現状報告、諸問題に関する相談や協力の依頼、地域での関り方などの話し合いを行っている。		
9	6	☒ ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターには新しい入所者の依頼や五個荘支所へは事故防止に関する相談、再認定に関する相談等で関りを持っている。		
10		☒ ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では対象となる利用者がいないが必要に応じ、研修会に参加している。		
11		☒ ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常ケアの中で身体的、精神的虐待がないか常に気を配っている。過去に何度も話し合いを行い改善に努めている。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
I－4. 理念を実践するための体制					
12		☒ ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約を行い、解かり易い様に内容の説明を行っている。質問事項に関しては納得して頂けるまで確認を取りながら説明している。		
13		☒ ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の個々の相談は居室にて1対1の対話で悩みの相談を傾聴している。内容によっては御家族様にも参加して頂く。		
14	7	☒ ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の”悠愛だより”にて報告している。別に緊急的な内容や変化に関してはその都度報告している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	☒ ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に御家族様と少しでもお話しが出来る機会を作っている。家族会を通し苦情相談窓口も設けている。また、第三者(市、町)にも窓口がある事の情報提供もしている。		
16		☒ ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議において意見交換を行なっている。個別に対応も行っている。出た意見は会社に報告し改善に役立っている。		
17		☐ ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	3対1の体制は出来ているが緊急時の対応に人数の確保が難しい。	○	収支の見直しで改善できればと考える。
18	9	☒ ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は出来る限り少なくしている。離職に関しては理由を聞き改善可能な内容であれば運営者と相談の上、対応している。		
理念を実践するための体制 7項目中 6項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	☒ ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の計画書は、作成し取り組みに努めている。外部研修は、それぞれの能力に合わせた研修に参加を促している。		
20	11	☐ ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の機会があるがなかなか参加が出来ていない。	○	参加しやすい職員体制の見直しを行っている。
21		☐ ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現状、実施できていない。	○	ストレス回避の為に数日以上以上の休暇が取れる様な体制に行きたい。
22		☐ ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月、勤務表は提出しているにも関わらず勤務表の把握もしていない。個々の評価も何を基準にしているか解からない。	○	今後法人共通の評価システムに取り組みたいと考えている。
人材の育成と支援 4項目中 1項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		☒ ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に面接等で現状の把握をし、求めているニーズを正しく判断できる様に努めている。		
24		☒ ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族様がお困りの内容や介護に関する不安、環境的な問題、また、利用者と御家族様の思いの違いにも傾聴する姿勢で臨んでいる。		
25		☒ ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の所、他のサービス利用の必要性や希望はないが必要に応じ検討したい。		
26	12	☒ ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、事前訪問して頂き、苑の利用者との交流を持っている。(おやつや食事を一緒にし、馴染める雰囲気を作る)		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	☒ ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事等を一緒に行う事により、人生の先輩から漬物の作り方や知恵袋のアドバイスを頂いている。		
28		☒ ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	苑での状況報告や緊急時の報告を含め、御家族様と共に考え、アドバイスを頂き、共に共有している。		
29		☒ ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前の御家族様との関係には理解と配慮し、出来る限り苑内行事に御家族様も参加の機会を設けている。家族間の絆が希薄にならない様に努めている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		☒ ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所には御家族様と話し合いを行い対応している。また、字の民生委員や近隣の友人が訪問され交流をしている。		
31		☒ ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のトラブルが起きない様に配慮し、孤立化しない様にお手伝いなどを協力し合い関りを深めている。		
32		☒ ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の様子は気になっているが本人、御家族様よりの連絡がない限り、苑側からの連絡は遠慮している。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	☒ ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人希望を最優先している。(実行可能な場合)職員で対応が難しい場合は御家族様との話し合いにて対応している。		
34		☒ ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集は本人、御家族様よりお聞きしている。他に本人の日頃の生活状況の把握に努め、自分らしい暮らし方についての把握に努めている。		
35		☒ ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録にその日の心身の状況をしっかりと記録し問題がある場合は引き継ぎ事項とし、職員全員で共有できる様している。		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	☒ ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まずは本人と話し、「悩みは何か、何を望んでいるか」を把握し担当者の意見を聞き、御家族様と検討、協議の上でプランに反映している。		
37	16	☒ ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状の変化や実行不可能な状態になった場合は速やかにプランの見直しを行っている。担当者と話し合い、御家族様との協議の上で実行している。		
38		☒ ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に正確にきちんと記録する様にしている。変化や問題は職員全員が把握できる様に引き継ぎを確実にやり様子観察の持続を行い、プランに反映している。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	☒ ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他の事業所の利用は必要性、希望がない。生じた場合は対応したい。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		☒ ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる”生のオカリナ演奏”を苑内で実施した所、大変喜ばれた。民生委員や知見者の紹介で実現できた。		
41		☒ ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センター主催で事例検討会が実施されている。ケアマネとして始めての交流の場となっている。情報交換や収集に役立てている。		
42		☒ ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	上記の内容と連動するがその場で相談や指導等も行える。継続を願っている。		
43	18	☒ ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との関係は大切にしている。苑の協力医との連携も出来ている。		
44		☒ ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医とは蜜に受診、相談を行っている。緊急的に対処する問題にも電話での対応や受診の配慮をいただいている。		
45		☐ ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は不在。職員間での対応が難しい場合は主治医との連携の元で指示を仰いでいる。	○	訪問看護、居宅療養管理の受け入れの検討を行いたい。
46		☒ ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の状況は御家族様より情報を頂いている。退院に向けてのカンファレンスは医師、看護師を含め退院前に行い、苑内での注意事項や生活レベルの話し合いを行っている。		
47	19	☒ ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	90歳を超える利用者が半数を占める割合になってきた現状の中、医療との連携を蜜にし医療、介護の両面からの支援を行っている。また、身体面での変化が生じた場合は速やかに御家族様との連絡、話し合いを行っている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		☐ ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	専門的な職員の勉強会、看護師等の要請、課題は山積している。出来る事から少しずつ進めている。	○	家族会の重要課題であり、何回も話し合いを持ちたい。また、苑で出来る事を具体的に行きたい。
49		☒ ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の高齢者にとって環境を変える事のデメリットは非常に大きい。ダメージを軽減できる様に努めている。		
地域資源との協働 10項目中 8項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		IV-1. その人らしい暮らしの支援			
		IV-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	20	☒ ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	トイレ誘導時など、気を使わせない様に声掛けには配慮している。個人記録には御家族様にもわかり易い様に言葉を選び記入している。		
51		☒ ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の発する言葉に耳を傾け、それに向けたケアが出来る様に努めている。説明は本人に解かり易い様に言葉を選び「ゆっくり、優しく」を心がけている。		
52	21	☒ ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スタイルは個人で違いがあり尊重している。じっとしていられない多動な利用者には自由に苑内を動き回って頂いている。決して制止せず、但し、見守りはしっかりと行っている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
		IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		☒ ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪に関しては月に一度、移動散髪を利用している。髪型は本人の好みになる様にお願いしている。		
54	22	☒ ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい大きさ、量、好みに合わせて提供している。席も場合によっては換えている。(席の移動はお互いの人間関係が悪くなった時に行う)後片付けは積極的にして下さる。		
55		☒ ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物に関してはおやつ時、本人の希望をお聞きしお出ししている。酒、タバコの希望はない。		
56		☒ ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを記録し排便管理も大切。本人の訴え時、毎食事前のトイレ誘導を行っている。排泄後はウォシュレットにて洗浄、清拭等で清潔を保持している。		
57	23	☒ ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、隔日で入浴されている方に関しても、その日の体調、本人の意志を尊重しながら行っている。また、湯の温度、入浴の時間にも配慮している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		☒ ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室内温度や照明を調整し、快適な睡眠が取れる様に努めている。夜間不眠時、傾聴し、日中の過ごし方、体調変化の確認も行う。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	☒ ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の能力に合わせ、食器拭き、洗濯たたみ、後片付けなどで役割、協力性に努めている。毎月の行事や誕生会にはボランティアによるオカリナ演奏会を実施、楽しんでいただいている。		
60		☒ ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	苑内において「駄菓子屋」を実施。自分の財布からお金を払う実感を体験してもらっている。		
61	25	☒ ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	さくら、紅葉の季節には戸外での外出を実施し個別には希望時、対応している。苑近くの散歩や混乱時のドライブ等も行っている。		
62		☒ ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方場合は御家族様と相談の上、実施に向け調整している。墓参りなどは御家族様をお願いしている。季節の移り変わりを肌や目で感じて頂ける様にさくら、紅葉見学も実施。		
63		☒ ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては来た物は本人に渡し、時には読んでさし上げている。電話の対応は御家族様に対し了解をとっている。		
64		☒ ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問や面会は本人の居室で対応。お茶などを出し、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		☒ ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	紐、柵、つなぎ服の使用は禁止している。ただし、起き上がり自立に向けての柵、紐は訓練目的で使用を話し合いにより決めている。		

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	☒ ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員一同、居室や玄関に鍵を掛けないケアに努めている。スタッフ会議で鍵を掛けないケアについての確認と勉強会を実施。		
67		☒ ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が目視や声掛けにて所在確認を把握している。また、夜間帯では巡回にて様子の確認をさせていただいている。		
68		☒ ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、はさみ等の注意の必要な物品は使用時以外は保管、管理している。		
69		☒ ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリハット、事故報告書等の記録を利用し再事故防止に努めている。また、リスクマネジメントにより、防止に努めている。		
70		☐ ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全員、有資格者であり知識的にはある。しかし、実践経験がないので必要に応じ技術面において勉強会を実施している。	○	年間を通し、定期的に行える様に計画を立て実施していきたい。職員の不安の軽減の為に。
71	27	☐ ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議において地域との関りは増している。災害時の協力もお願いしている。また、苑内において避難訓練を実施。	○	地震や水害の天災に関し、地域との連携が必須である。避難場所までの誘導方法が今後の課題である。
72		☒ ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	歩行、食事について、転倒、誤嚥等の可能性のある場合は御家族様と相談、対応についての了解とご協力をいただいている。ふらつきに関しては下肢筋力アップに努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 6項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		☒ ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前、午後にバイタルチェックしている。異変に気付いた際は、スタッフ間で情報を共有し速やかに対応している。また、場合によっては協力医への受診も行っている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		☒ ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	保管やセットは職員が行う。当然、把握はしている。薬の変更は全員が把握できる様に引き継ぎノートや口答で確実に引き継いでいる。服薬時、誤薬防止の為に大きさ、数、色を確認している。		
75		☒ ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	3日以上便秘になると芋や牛乳を用い、5～6日続くと摘便、浣腸の時もある。午前、午後に基礎的な体の体操や立ち上がり運動を行っている。薬の使用は状態によって使用している。		
76		☒ ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、就寝前に歯磨き、うがいを必ず行っている。また、義歯は夜間、ポリデンにて洗浄し保管している。		
77	28	☒ ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは1日、1800kcalでバランス良く管理している。量は個人により違いがある。形態は個人の好みに合わせている。摂取量の少ない方はおやつ時にバナナや果物で対応している。		
78		☒ ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員が媒介になら無い様に気を付けている。苑内においては全体の換気、毎食事の手洗い、うがい、体調管理を把握している。(便、バイタル、顔色、摂取量の変化倦怠感の有無、咳、鼻水)		
79		☒ ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はナリコマを使用、配達後すぐにチェックし冷蔵庫に保管している。賞味期限を常に確認している。調理器具はハイターにて消毒している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		☒ ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の和みになればと思い、玄関前にめだかを飼育している。近所の子供さんに分けてあげている。		
81	29	☒ ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日が強いので光を遮るカーテンなどで工夫している。トイレ、廊下、壁、ホールには、写真やカーテンで心が和むような雰囲気になる様に努めている		

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		☒ ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し憩いや休憩場所としている。台所にも椅子を置き個別に「腹へった」時の対応をしている。一人になりたい時は居室で過ごされており、1対1の対話をしている。		
83	30	☒ ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所時に慣れ親しんだ家具や物を使用していただいている。(御家族様に設置をお願いする)他にADL低下に伴い、ベッドが必要となり設置、立ち上がり時に椅子が必要となり設置。		
84		☒ ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天窓があり、感染防止の意味からも苑全体の換気を行っている。居室の窓も開閉を行い調整している。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		☒ ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには手すりを設置し安全確保に努めている。また、手すりは立ち上がり時の下肢筋力アップの訓練に役立っている。		
86		☒ ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱時は傾聴し原因を探り方向性を見出している。失敗はさり気なく、支援している。本人の気持ちをくみ取る努力をしている。		
87		☒ ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	めだかのえさやり、花壇の水やりを行っている。天気の良い日はベランダで日光浴をしている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない
項 目		取 り 組 み の 成 果 14 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自立(潜在能力を生かすケア)、尊厳(自分らしい暮らし方)を基本に、グループホーム悠愛が「第二の我が家」を基本理念として5年の歳月が流れました。認知症、身体的機能の重度化が進む中、利用者、個人個人がお互いを助け合い、思い合い、励ましあう姿を通し、ケアする職員全員が「一人では決して生きていけない大切なもの」を学ばせてもらっています。利用者の心の中に「此処に来て良かった、此処が私の家」と思ってもらえる様、日々の支援と安らぎを感じて頂けるように努めています。

評価結果整理表

個 別 表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	☒ 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	☒ 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3.	☒ 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	☒ 理念を実践するための体制	6 項目/7項目
－5.	☒ 人材の育成と支援	1 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	☒ 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	☒ 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	☒ 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	☒ 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3.	☒ 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	☒ 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	8 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	☒ 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	☒ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	☒ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4)	☒ 安心と安全を支える支援	6 項目/8項目
－1. (5)	☒ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	☒ 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	☒ 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総 合 評 価

I 理念に基づく運営（☒ 5項目／5項目）について

自立と尊厳を基本に”その人らしい”暮らし方が実現できる様に常に考え、話し合いを行っています。しかし、理想と現実の違い、基本と実践の違いの壁にぶつかり、日々、悪戦苦闘しているのが実情です。悠愛だけでは対処困難な諸問題も御家族様や地域に支えられ、運営推進会議の場で相談、ご指導を頂きながら少しずつ成長してきました。これからの課題として、ターミナルに向けての体制づくり、災害時の対応、避難誘導と山積していますが、一步一步進めています。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援（☒ 2項目／2項目）について

5年目を向かえ、お互いに馴染みの関係が出来、思いやり、励まし合い、教えあいがお互いの間に定着しています。「お互い、頑張りましょうな、自分の為やしな」と声掛けあって、お手伝いを積極的に取り組んで下さいます。また、95歳を筆頭に90歳以上の利用者が4人おられ、体調を崩されないように様子観察をしっかりとし、医療との連携も密に取り健康管理に努めています。苑行事の際も出来る限り、ご家族様参加とし家族間に関係が希薄にならない様に配慮しています。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント（☒ 4項目／4項目）について

認知症が進行しても、自然で自由にその人らしく暮らしていける様に支援出来たらと考えます。ADLが低下しないように残存能力がフルに発揮出来る場所の提供と出来る事に関しては必要以上のケアをしない忍耐、見守り、寄り添いを職員全員が共通意識を持って目標に取り組んでいます。また、すでに失われてしまった能力に関してもリハビリや本人の頑張りや周囲の理解で少しでも改善出来たらと考えます。可能性を信じます。本人は勿論の事御家族様、担当者、ケアマネージャーが共にその方の残された人生の計画を何度も話し合い、有意義で生き甲斐のある日々にしていけるように努めていきたいと考えます。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援（☒ 7項目／7項目）について

一人ひとりに価値感が違うように、長年慣れ親しんだライフスタイルや生活習慣を認め、支援し、応援し、共に分かち合いながら、健康で安心ある日々の継続がいかに大切かを痛感しています。決して害してはならないプライバシーや犯してはならない心身の虐待は私たち職員一人ひとりが守らなければならない重大な任務であると自覚しています。「遅くまでご苦労さん。お世話になります。有難う。」の温かいお言葉を頂き、逆に励まされています。気候の変動が激しい時代になり、地域で災害による被害者が報道されるたびに高齢者の数が多いのに心を痛めます。苑においても他人事ではなく、被害を最小限に留める為には如何したら良いかと話し合いを行い、まずは避難訓練から初めています。

V サービスの成果に関する項目について

5年間で過ぎ、90歳以上の利用者が4人おられ、終末期に関するケアの重要性を関係者共々、真剣に取り組まなければならない課題であると思っています。日々の暮らしの中でお互いの意見の違い、価値感の違い、言い分、立場によるトラブルもありますが、気分が落ち込んでいる時「どうしはったん、大丈夫か」とお互いを思いやり、協力し合い、励ましあっている姿があり「一人ではない」家族があることを感じさせられます。月日の長さ、生活を共にしているからこそその馴染みの関係が出来たのではないかと思います。利用者主体を基本に支えあいの心で努めていきたいと思っています。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称 グループホーム 悠愛

評価年月日： 年 月 日

前回評価年月日： 年 月 日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
72	1	災害時、避難場所への避難誘導	H21、12/1 ～H22、11/ 30	地域、近隣との連携、情報収集		
70	2	急変時や事故発生時の備え	H21、12/1 ～H22、11/ 30	消防署による救命救急の研修		
47	3	重度化や終末期に向けた方針の共有	H21、12/1 ～H22、11/ 30	家族会での話し合い		